



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-025 号

新島襄から学ぶ その2 脱藩？戦略



タイトルに「脱藩」とありますが間違いです。新島は許可無く藩を出たのではありません。

その状況については後ほど申し上げますが、まず、訂正しておきます。

新島は脱国してでも海外に行こうと決心したが、その手立ては全く見通せていなかった。その頃、開港していたのは、神奈川、箱館、長崎の3港だけ。その中では箱館の警備が手薄だろうと考えていたようだ。なお、その後の開港は、神戸が慶応3年(1867)に、新潟は明治元年(1869)の開港している。

新島が脱国した箱館へ江戸から移動出来たのは、次のような経緯からである。

<明治2年(1869年)に蝦夷地が北海道となり箱館も「函館」と改称された>

「航海書を読んでいた新島が分からないところを中浜万次郎に教えて貰おうと、駿河台を下ってきたその時、以前、快風丸で備中松山藩(岡山)まで一緒に乗船した加納格太郎とバッタリ出会った。そして、彼は「今、快風丸で江戸に来ているが、4-5日後には、箱館に向かうが、乗船する意志があるか?」と尋ねた。新島は「願ってもないことだ。期日があまりにも迫っているので、藩主や父母の許可が得られるか心配だ」と答えた。私は何とか工夫をしてみようと言って、分かれた。

<中略・新島はどうすれば、4-5日で了解を取れるかを考え、実行に移した。>

.....箱館にある武田塾で修学するとのことで、ようやく藩主から許可がおり、俸禄のほかに修業料として一年分 15 両の手当を賜った。(お手当が出るのだから正規のもので脱藩ではない)

.....
新島はどのような手順、方法で目的を達成したのか？ 原文を確認下さい。

原文は岩波文庫『新島襄自伝』p.82「江戸から函館へ」にある。なお、ここでは『現代語で読む新島襄』の p.29「箱館紀行」からも要約して掲載している。

そして、新島の採った行動から我われが学ぶべきことは、どのようなことでしょうか？
お答えをメールでお教えてください。それを OB/OG で共有化したいと思います。
お寄せいただいた内容は、原則、つぎの「同志社ファン・レポート」で公表します。
文章には、氏名・学部・卒業年を添えてください。お待ちしております。

.....

<読者の皆さんからの投稿>

宇治郷毅様 (1966 年、大学法学部卒)

私は時々『新島襄全集』第 5 巻「日記・紀行編」をひも解いて、新島先生を偲んでいます
が、この中には先生が愛読した、または求めた多くの本の名前が出てきます。

先生は漢籍では、論語、三国志、唐詩選など多数。和書では、古事記、大岡政要記など。
これだけでなく多くの欧米の本にも興味を示して居られたことが確認できます。

先生は、「本との縁」に恵まれた人でしたが、前号で採り上げた三冊の本もそうですが、
先生の「学びたい」という強い思いが良き本との出会いをもたらしたものと思います。

なお、あの三冊の本は、新島先生の運命を変えた、あるいは切り開いた代表的な本と言える
でしょう。■